

# 自己評価票

## 地域密着型サービス自己評価項目 (評価項目の構成)

### .理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

### .安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

### .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

### .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

### .サービスの成果に関する項目

#### [記入方法]

複数のユニットを持つ認知症対応型共同生活介護事業所の場合、各ユニット管理者が介護職員と協議の上記入してください。

次の項目は、小規模多機能居宅介護事業所のみ記入してください。

- 項目番号23 初期に築く本人との信頼関係
- 項目番号24 初期に築く家族との信頼関係
- 項目番号25 初期対応の見極めと支援
- 項目番号26 馴染みながらのサービス利用
- 項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援

次の項目は、認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入してください。

- 項目番号53 身だしなみやおしゃれの支援
- 項目番号59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援
- 項目番号60 お金の所持や使うことの支援
- 項目番号61 日常的な外出支援
- 項目番号62 普段行けない場所への外出支援
- 項目番号63 電話や手紙の支援
- 項目番号64 家族や馴染みの人の訪問

#### [用語について]

管理者 = 指定事業者としての届出上の管理者とする。「管理者」には、管理不在の場合にこれを補佐する者を含む。

職員 = 「職員」には、管理者及び非常勤職員を含む。

事業所名	グループホーム すぷりんぐ
(ユニット名)	ふきのとう (1F)
記入者(管理者) 氏名	二瓶 美佐江
評価完了日	平成19年 10月 31日

## 自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>．理念に基づく運営</b>			
<b>1．理念と共有</b>			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>「ご利用の皆様が安心して自分らしい生活を送れるよう全力をつくし、地域への貢献と自らの向上を目指します。」といういづみ福祉会の理念に加え、「入居者の趣味や嗜好、生活の歴史を大切に、地域に溶け込んで普通の生活が送れるよう支援いたします。」ということを運営方針の一つに定めている。</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>グループホームの理念は、職員採用の研修で具体的に説明している。その後もミーティングや申し送りでも話し合い理念、ケアについて統一を図っている。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>パンフレットや説明文書又ホーム内に掲示し、入居者・家族・見学者にも分かり易く説明している。</p>	
<b>2．地域との支えあい</b>			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>町内会へ加入しており入居者と一緒に回覧板を届ける為隣家を訪ねている。近隣の人達から作物を頂いたり、散歩に出かけることで挨拶をかわしたりしている。</p>	
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>地域「西笹川」の町内会に加入しており、町内の行事も把握できる。地域の方にもグループホームの説明をし理解を得る努力をしている。子ども会の御輿がホームに立ち寄ってくれている。</p>	

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>人材育成として地域の中学生の体験学習の受け入れを行っている。法人でヘルパー養成講座を開講しており、グループホームの職員も講師として養成に当たっている。</p>		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>自己評価及び外部評価の目的を全職員に伝え、自己評価を行いサービスの質の向上に努めている。又、外部評価の結果についてはミーティング等で報告し改善に努め、管理者と職員が一丸となり更なる質の向上を目指して取り組んでいる</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>会議では事業所からの報告のみならず出席者からの質問、意見等も伺い、話し合いすることでサービスの向上に活用している。</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>郡山市の福祉フェスティバルの実行委員として開催運営に参加している。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>研修会等で地域権利擁護事業や成年後見制度についての理解はしている。現在利用はないが必要に応じて活用していきたい。</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>外部の研修に参加し高齢者虐待防止関連法について学んでいる。全職員に資料を配布し説明を受け、その内容を理解し、虐待を防止している。</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>管理者は職員のストレス軽減の為、常に気配りし離職を最小限に抑える努力をしている。又、職員異動の際には十分な引き継ぎを行い、入居者や家族に紹介を行い、不便がないように配慮している。</p>		
<b>5 . 人材の育成と支援</b>				
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員はそれぞれの等級に応じた研修に積極的に参加している。参加後は復命書にて報告すると共に、全体ミーティングにて職員に報告を行っている。職員には研修案内を回覧し自己啓発も促している。</p>		
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>県のGH連絡協議会にも加盟しており、協議会の会議や研修に積極的に参加し、意見交換を行っている。</p>		
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>年に3回人事考課の面接の中で業務の悩みや不安に対しての相談を受け、助言を行っている。又、法人の親睦会に積極的に参加しており、職員間の親睦を深めている。</p>		
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>人事考課制度を取り入れており、能力に応じた給与体制にしている。また、一定の資格については取得者に祝い金が支給される制度があり、職員の質の向上を奨励している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)</b>			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている(小規模多機能居宅介護)</p>		
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている(小規模多機能居宅介護)</p>		
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている(小規模多機能居宅介護)</p>		
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)</p>		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は人生の大先輩に対しての尊敬の気持ちを持って接しており、日々色々な事の教えや助けを頂きながら一緒に毎日を送っている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時には入居者の状況報告を行い受診した際にも電話などで状態の報告を行っている。又、広報紙の発行によりグループホームでの生活の様子や近況をお知らせし、情報の共有に努めている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居者の日常生活の様子、必要な連絡を密に行い来所して頂く機会を設け、関係が途切れない様配慮している。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者にとって大切な家族や友人との面会、外出やイベントなどを通して交流する機会を持っている。家族や馴染みの人への手紙・電話での連絡を取り、関係が継続するよう支援している。		
31	利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者が生活していく中で、職員が入居者間に入り、関係を保てる様支援している。個別の関わりを大切にし、そこから集団で生活の中で孤立しないよう、時には職員が調整役となり支援している。		
32	関係を断ち切らない取り組み  サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居された後も何かとホームの事を気にかけて下さる方もおり、出会えた縁を大切にし、退居後も必要に応じて支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1．一人ひとりの把握</b>			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々の関わりの中で話しや表情、仕草からその人が何をしたいか、どのような希望があるのかを推測し、それを確認していく。又、その内容を職員全員で把握していく。</p>	<p>うまく表現出来ない方や伝えられない方のシグナルを見逃さないよう表現や行動から何を意味するか理解する努力している。</p>
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居時に今まで使用していた馴染みのある家具、その他愛用品を持ち込んで頂くようにしている。また、本人やご家族より生活歴などを尋ね、それらの情報によりフェイスシートを作成、アセスメントを行いその内容を記録して全職員が把握し、ケアに活かすようにしている。</p>	<p>本人のこだわり、今までの馴染みの暮らしを大切にし、生活を支援していきたい。</p>
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>生活のリズムに配慮しながら、本人のペースで行えるよう、起床や食事の時間についても柔軟に対応している。また、入居者が出来る事を介護計画を通し全職員で確認し、必要なケアを提供している。</p>	
<b>2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居者の意向に沿った目標を立て、ホームでよりよい生活が出来るように介護計画を作成している。また、家族の面会時に入居者の生活の様子や心身の状態を報告している。介護計画には、本人の意見を尊重し作成している。</p>	
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>設定した期間に見直しを行っているが、本人の状態に応じ随時見直しを行っている。また、変化が生じた場合には、本人や家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した計画を迅速に作成している。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38	<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個別の一日の生活の様子や表情、バイタル、排泄や入浴の状況、食事や水分の摂取量、面会者、受診の状況等を生活表に記録している。カンファレンスや申し送り時はもちろんであるが、日頃の業務の中でも職員同士の意見交換を行い考察している。その意見を取り入れながら介護計画を作成しており、介護計画に基づいたケアを提供している。</p>	<p>日々の個別記録を元に情報を共有し、困難な事例に対しても対応している。</p>
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援（小規模多機能居宅介護事業所のみ記入）</b>			
39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている（小規模多機能居宅介護）</p>		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>			
40	<p>地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	<p>近くの別法人の施設や理容店、消防署、タクシー会社などへ理解を得られるように働きかけている。また、近所の方々へは積極的に挨拶をしている。</p>	
41	<p>他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	<p>現在はないが、入居者や家族の意向や必要に応じて他のサービスを利用を支援して行きたい。</p>	
42	<p>地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<p>運営推進会議の委員として地域包括支援センターの職員も出席している。グループホームでの暮らしぶりなど伝え、長期的なケアマネジメントについて連携を図っている。</p>	

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>協力病院には優先的に受診していただけるような連携をとっている。かかりつけ医に往診していただいている方もいる。また、薬の処方については、薬剤師が直接ホームに届けてくれ、薬の指導も受けるという体制をとっている。</p>		
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>協力病院として、精神科の医師を確保しており必要があれば医師からの指示を仰いでいる。</p>		
45				
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入院時には本人の支援方法、生活の様子等を医療機関に提供し、家族との情報交換をしながら、早期退院に努めている。</p>		
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>契約時に利用者や家族と定期受診や急変時の受診先を確認している。体調に変化があった際には、速やかに上司へ報告し体調管理に努めている。</p>		
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>入居者の急変時には、すぐに対応できる総合病院が協力病院としてあり連携を図っている。かかりつけ医と連携し可能な限りホームでの支援を行なうが、医療行為が出来ない為医療が必要な方を受け入れる協力病院が確保されており、入居者や家族に安心していただいている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>新しい住まいでも環境の変化に戸惑うことが少ないように、これまでの生活の様子、支援内容、注意点等の情報を提供している。</p>	
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>入居者一人一人の人間としての尊厳、プライバシーに十分な配慮をすることは法人の基本方針に掲げられており、全職員がその方に合わせた言葉掛けや対応を行なっている。入居者が混乱、不穏な状態にいる場合でも本人の話を否定せず、落ち着いた態度で接している。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>入居者と一緒に献立を立てたり、毎日着る衣類を選んだり、日常のご自身に選択をして頂いている。本人の思いを傾聴し、個人の状態に合わせた声掛けを行なっている。「自己決定の尊重」は法人の基本方針であり、職員や施設の都合で行なっていない。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>入居者の意志を尊重し、個人の生活のリズムに配慮し、個人のペースで行える様起床時間や食事時間についても、柔軟に対応している。日中も個人の状態に合わせて過ごせる様、自分のペースが保てる時間をとっている。</p>	
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援(53は、認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)</p>			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている(認知症対応型共同生活介護)</p>	<p>入居者一人ひとりが好みの服を選べるように支援している。化粧水や口紅等をつける方など個人の好むおしゃれや身だしなみに配慮している。理美容院は入居者の希望に合わせ、美容師さんにホームに来ていただいたり、家族が対応している場合もある。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>入居者と一緒に和やかで楽しい雰囲気ですぐに食事がとれるよう心がけている。畑で四季折々の野菜を作っており、食事に旬の野菜を取り入れている。対面式の台所で一緒に準備、盛り付けし、片付けも一緒に行っている。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>個人の好きなものや嫌いな食べ物を把握しており、本人が希望する飲み物やおやつ等を家族や職員が用意し、希望時提供している。</p>	
56	<p>気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>個々の排泄パターンを把握し、個々の状態に応じた対応をしている。排便の状況も確認し、バランスを考えた食事等から自然排便に努めている。個々に処方された下剤についても服薬量や頻度の確認を行っている。</p>	
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>バイタルチェックを行い、個々の希望する時間帯に個々のペースに合わせて入浴出来るよう配慮している。入居者一人ずつ入浴され、職員一名が見守り、必要に応じて介助を行っている。浴槽のお湯は一人毎に交換し、ほぼ全員が毎日入浴している。</p>	
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>一人ひとりの睡眠パターンは申し送り(生活表を確認したり)等で把握している。眠れない方はテレビを見たり、ホールで職員と話をしたり、お茶を飲む等対応している。日中傾眠みられる方には日中に体操や掃除、散歩を取り入れゆっくと眠れるよう支援を行っている。</p>	
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)			
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)</p>	<p>食事作り、居室の掃除等一人ひとりの力を発揮してもらえるような場面の提供を行っている。又、外出では、入居者が行きたい場所や食べたいもの等意見を取り入れ、相談しながら行っている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している(認知症対応型共同生活介護)	日常の金銭管理の出来る方には小銭の管理をして頂き公衆電話などに利用している。その他の入居者には家族の同意を得て、防犯上の問題から通帳管理をしている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	入居者の希望に応じて、買い物や外出、散歩、ドライブなどを楽しめるようにしている。又、歩行が困難な方に対しては、車椅子で出掛けられるように支援している。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している(認知症対応型共同生活介護)	家族の協力を得ながら自宅や墓参り等に出掛けられる入居者もいる。入居者の希望があった際には実現できるように支援している。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	玄関に公衆電話を設置しており、入居者が気兼ねなく、いつでも家族や友人と連絡がとれるようにしている。家族も直接公衆電話に掛けて来る事も出来る。本人の希望により、電話の介助や手紙の代読や代筆を行なっている。個人用のポストも玄関に設置してある。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している(認知症対応型共同生活介護)	家族や馴染みの方が訪問しやすいような雰囲気作りを心がけている。家族の希望があれば宿泊や、一緒にご飯を食べる等の配慮を行っている。他入居者に遠慮することなく過ごしていただけるように、スペース(談話室)を整え居心地のよい空間作りに努めている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内に各部署より「身体拘束廃止検討委員」が選任されており、グループホームからも委員が定期的に委員会に参加している。ミーティングや申し送りに全職員に伝達、報告し、身体拘束を行わないケアをしている。又、外部研修にも参加している。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関の施錠はしていない。ホール内に職員が常におり、安全面に配慮しながら見守り、対応している。夜間は職員の配置人数が少ない為、事故防止や防犯の為施錠している。その旨、家族に説明し、了承を得ている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中はホール内で見守り対応している。ホールから離れる際には職員同士が声かけし、ホール内の見守りができるようにしている。また、台所が対面式になっており、調理中も見守り対応している。夜間は巡視をし、状態観察するとともに、全体が見通せる位置で待機をしており、利用者の安全に配慮している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	全てを取り除くのではなく、入居者一人ひとりの状態を把握し、入居者の状況変化によっては注意を促していくなどケースに応じた対応をしている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハットや事故報告書の提出すると共にし、内容や対策を全職員が把握し、共通認識を持ち事故防止に努めている。法人内に事故防止委員会を設置しており、定期的に委員会を開催し事故防止に取り組んでいる。入居者の状態から危険を予測し、ミーティングの中で対策を検討し、統一した対応をしている。		
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時マニュアルを作成し、全職員が内容を把握し、実施している。また、法人で行われたBLS講習に参加したり、ミーティングの際、法人の看護師から講義を受け、緊急時の対応ができるようにしている。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	自衛消防隊を結成し、マニュアルを作成している。年に2回(うち1回は夜間想定)消防署立会いのもと、避難訓練を行っている。その際、消化器の使い方の訓練も行っている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	リスク対応に関する家族等との話し合い  一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居者のリスクと対応については面会時や電話などで家族へ報告を行い、状態を理解していただいている。又、対応策については職員間でミーティングやカンファレンスで話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応  一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段の状態を職員は把握しており、食欲や顔色、様子等の変化が見られた時は、バイタルチェックを行い、速やかに上司に報告すると共に、職員間で情報を共有し、記録している。必要に応じて医療機関の受診を行っている。		
74	服薬支援  職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の薬に関する情報を個別ファイルに保管し、その内容を把握している。服薬時は本人に手渡し、内服するまで確認している。薬の処方や用量が変更された時は職員間で情報を共有し、本人の状態変化が見られる時は上司に報告するとともに記録している。		
75	便秘の予防と対応  職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	繊維質の多い食材や乳製品を取り入れたり、食事の工夫をしている。トイレ介助の際、腹部マッサージなどを行い、自然排便できるように取り組んでいる。下剤の使用の際は、個人の状態に合わせた使用量、頻度に行っている。		
76	口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	職員は口腔ケアの大切さを充分理解しており、毎食後の歯磨きや外出後のうがいの声掛けを行い、個人に合わせた援助を行っている。		
77	栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量や水分量は個別に生活表に記入し、周知している。硬いものが苦手な方には、刻み食にしたり麺類等を食べたくない時に白米で対応すること等個別に応じて支援を行っている。一人ひとりの嗜好を把握し、献立に取り入れながら、栄養のバランスにも配慮している。必要に応じて、個別に高カロリーの栄養剤による補給を行なっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	感染症予防  感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	入居者や職員は外出後や食事前はうがい手洗いをしている。又、外からの感染を防ぐため入り口に張り紙をして、外来者や面会者に石鹸での手洗いの協力をお願いし実行している。ノロウイルス対策の為、使用時毎の便座の消毒、便や嘔吐物の後始末の処理を徹底している。		
79	食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎食後、食器類は熱湯消毒を行っている。まな板、布巾は次亜塩素酸ナトリウムで消毒除菌を行っている。台所はいつも清潔を保持するため次亜塩素酸の薄め液を用意し、消毒除菌を行っている。食材は賞味期限の確認を徹底している。又、野菜等は買った日付を記入し古いものから使っている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫  利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	ホーム周辺に植物を植えたり、玄関先には花を植えたプランターやベンチを置くなどしている。玄関には季節に合わせた飾りや置物で装飾したり、家庭的な雰囲気心をかけている。		
81	居心地のよい共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の生活空間には家庭用の冷蔵庫や食器棚、ソファを設置し、浴槽も家庭用浴槽を使っている。季節の花や観葉植物を飾ったり、落ち着いた空間を心がけている。居室の照明は明るさの調整が出来るものを使用しており、日差し対策としてのカーテンの使用と合わせてどちらもこまめに職員や入居者が調整している。職員は生活の場である事を常に意識し、テレビの音量や会話のトーン、足音にも配慮している。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはテーブルと椅子があり、テレビの近くにソファのコーナー、廊下側には畳ベンチのコーナーがあり、入居者はその時々に合わせて思い思いの場所で過ごせるスペースを作っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>タンスや椅子以外にもそれぞれの入居者の好みや使い慣れた目覚まし時計やラジオ等の日用品を持ってきて頂き、入居者の居心地の良さに配慮している。</p>	
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>ホールに温度計を設置し、湿度や室温の確認をするとともに、入居者の様子を見ながらこまめに室温を調整している。トイレは小窓と空気清浄器で悪臭が出ない工夫をしている。</p>	
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>ホール内や廊下などに手すりを付けたり、トイレや玄関にはセンサーや呼び出しブザーを設置し安全の確保に努めている。ホーム内の廊下や階段、浴室には手すりが設置してある。共用の洗面台には高さの調節が出来る機能やトイレには跳ね上げ式の手すりと一定の時間が経過すると作動するセンサーが設置されている。流し台は入居者と一緒に作業できるようにシンクの広さを確保し、2つの蛇口を設置している。</p>	
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>居室の目印となる物や好きな物を飾ることが出来る飾り棚が居室入り口に設置してあり活用している。またのれんや表札も目印となっている。トイレには表示もあるが、場所が分からず困っている時には職員がさりげなく声掛けしている。</p>	
87	<p>建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>プランターに花を植えたり畑のスペースを確保することで入居者が日常的に活動できるような環境作りを行っている。又ホーム周りにはベンチを置き休息したり他入居者と話ができるような工夫をしている。ウッドデッキを活用し外の景色を眺めたり、外の風に当たったりできるようにしている。</p>	

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない	その他( )
89	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない	その他( )
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	その他( )
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	その他( )
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	その他( )
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	その他( )
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	その他( )
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない	その他( )
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない	その他( )

. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
項 目			
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない	その他( )
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない	その他( )
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	その他( )
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない	その他( )

## 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・入居者の約3分の1が同じ安積町内の出身者である。
- ・献立作成の際は検食簿を活用し入居者の希望を取り入れたり、必要に応じて同法人特養の管理栄養士の助言をもらいながら栄養のバランスに留意し、四季折々の食材を十分に活かした食事を提供している。「手作り」にこだわり、おせち料理やおやつも手作りを心がけている。
- ・入居者一人ひとりの誕生日には誕生者である方の希望の食事を作り、手作りのケーキで心をこめて誕生日のお祝いをしている。
- ・掃除や調理、野菜の下ごしらえ、盛り付け、食器洗い、洗濯たたみなど入居者の出来ることを支援し、出来ない部分を援助するように心がけ、認知症の進行予防に努めている。今年度からは特に認知症の予防の為に新たに「くもん学習療法」を取り入れ、希望される方に提供し支援している。職員も「学習療法」から学ぶ個別ケアをホーム全体のケアに活かしている。
- ・同法人の協力体制がある為、事故対策委員会や衛生委員会、身体拘束廃止検討委員会等の各委員会がありその中で各問題の検討がなされたり、外出時の車両と運転手の協力があるので入居者全員の外出も容易に可能である。法人挙げての行事(お祭りや餅つき大会など)を通して、入居者も特養やデイサービスの利用者又は職員との交流が図られている。

# 自己評価票

## 地域密着型サービス自己評価項目 (評価項目の構成)

### .理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

### .安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

### .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

### .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

### .サービスの成果に関する項目

#### 【記入方法】

複数のユニットを持つ認知症対応型共同生活介護事業所の場合、各ユニットごとに管理者が介護職員と協議の上記入してください。

次の項目は、小規模多機能居宅介護事業所のみ記入してください。

項目番号23 初期に築く本人との信頼関係

項目番号24 初期に築く家族との信頼関係

項目番号25 初期対応の見極めと支援

項目番号26 馴染みながらのサービス利用

項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援

次の項目は、認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入してください。

項目番号53 身だしなみやおしゃれの支援

項目番号59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援

項目番号60 お金の所持や使うことの支援

項目番号61 日常的な外出支援

項目番号62 普段行けない場所への外出支援

項目番号63 電話や手紙の支援

項目番号64 家族や馴染みの人の訪問

#### 【用語について】

管理者 = 指定事業者としての届出上の管理者とする。「管理者」には、管理者不在の場合にこれを補佐する者を含む。

職員 = 「職員」には、管理者及び非常勤職員を含む。

事業所名 グループホーム すぷりんぐ

(ユニット名) かたくり (2F)

記入者(管理者)  
氏名 二瓶 美佐江

評価完了日 平成19年 10月 31日

## 自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>「ご利用の皆様が安心して自分らしい生活を送れるよう全力をつくし、地域への貢献と自らの向上を目指します。」といういずみ福祉会の理念に加え、「入居者の趣味や嗜好、生活の歴史を大切にし、地域にとけこんで普通の生活が送れるよう支援いたします。」ということを運営方針の一つに定めている。</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>グループホームの理念は、職員採用の研修で具体的に説明している。その後もミーティングや申し送りでも話し合い理念、ケアについて統一を図っている。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	<p>パンフレット、説明文書、またはホーム内に掲示をし家族、見学者にも分かりやすく説明している。</p>	
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>町内会へ加入しており入居者と一緒に回覧板を届ける為隣家を訪ねている。近隣の人たちから作物を頂いたり、散歩に出かけることで挨拶をかわしたりしている。</p>	
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>地域「西笹川」の町内会に加入しており、町内の行事も把握できる。地域の方にもグループホームの説明をし理解を得る努力をしている。子ども会の御輿がホームに立ち寄ってくれている。</p>	

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>人材育成として地域の中学生の体験学習の受け入れを行っている。法人でヘルパー養成講座を開講しており、グループホームの職員も講師として養成に当たっている。</p>		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>自己評価及び外部評価の目的を全職員に伝え、自己評価を行いサービスの質の向上に努めている。又、外部評価の結果についてはミーティング等で報告し改善に努め、管理者と職員が一丸となり更なる質の向上を目指して取り組んでいる</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>会議では事業所からの報告のみならず出席者からの質問、意見等も伺い、話し合いすることでサービスの向上に活用している。</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>郡山市の福祉フェスティバルの実行委員として開催運営に参加している。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>研修会等で地域権利擁護事業や成年後見制度についての理解はしている。現在利用はないが必要に応じて活用していきたい。</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>外部の研修に参加し高齢者虐待防止関連法について学んでいる。全職員に資料を配布し説明を受け、その内容を理解し、虐待を防止している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居前に重要事項説明書の説明やオリエンテーションを行っており、事前に事業所の説明をしたり本人や家族の疑問や不安な点の解消に努めている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>受付窓口、責任者、第三者委員については文書にて説明すると共に、苦情解決委員をホーム内に掲示している。郡山市の介護相談委員の訪問も依頼しており、定期的に訪問して頂き、入居者の意見を聞いて頂いている。又、モニタリング実施時等個別に相談や苦情の有無の確認を行っている。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>入居者の健康状態については面会時などに報告を行っている。又、受診後必要に応じ、電話などで報告を行っている。入居者の心身の状態に異変が見られた時は、その都度家族に電話等で連絡や相談を行っており、その内容を記録している。預り金については3ヶ月毎の報告を行っている。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関先に意見や苦情等用の「ご意見箱」を設置している。又、郡山市からの「介護サービスについてのご意見記入シート」の配布依頼があり、家族に送付すると共に玄関先にも設置している。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>全体ミーティングやフロアーミング時に意見交換を行っている。又、人事考課の面接時に個人の意見を聞いており、職員も自身の目標を持って職務に取り組んでいる。平成18年4月より法人で「職員提案制度」を取り入れ職員の提案を奨励している。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>職員は、日勤、早番、遅番、夜勤の4交代勤務で対応し入居者の生活の支援を行っている。基準人員を満たしているが、昨年の4月から1名増員し更に職員の負担を軽減したローテーションになっている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>管理者は職員のストレス軽減の為、常に気配りし離職を最小限に抑える努力をしている。又、職員異動の際には十分な引き継ぎを行い、入居者や家族に紹介を行い、不便がないように配慮している。</p>	
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員はそれぞれの等級に応じた研修に積極的に参加している。参加後は復命書にて報告すると共に、全体ミーティングにて職員に報告を行っている。職員には研修案内を回覧し自己啓発も促している。</p>	
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>県のGH連絡協議会にも加盟しており、協議会の会議や研修に積極的に参加し、意見交換を行っている。</p>	
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>年に3回人事考課の面接の中で業務の悩みや不安に対しての相談を受け、助言を行っている。又、法人の親睦会に積極的に参加しており、職員間の親睦を深めている。</p>	
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>人事考課制度を取り入れており、実績に応じた給与体制にしている。また、一定の資格については取得者に祝い金が支給される制度があり、職員の質の向上を奨励している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)</b>			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている(小規模多機能居宅介護)</p>		
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている(小規模多機能居宅介護)</p>		
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている(小規模多機能居宅介護)</p>		
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)</p>		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は人生の大先輩に対しての尊敬の気持ちを持って接しており、日々色々な事の教えや助けを頂きながら一緒に毎日を送っている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時には入居者の状況報告を行い受診した際にも電話などで状態の報告を行っている。又、広報紙の発行によりグループホームでの生活の様子や近況をお知らせし、情報の共有に努めている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居者の日常生活の様子、必要な連絡を密に行い来所して頂く機会を設け、関係が途切れない様配慮している。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者にとって大切な家族や友人との面会、外出やイベントなどを通して交流する機会を持っている。家族や馴染みの人への手紙・電話での連絡を取り、関係が継続するよう支援している。		
31	利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者が生活していく中で、職員が入居者間に入り、関係を保てる様支援している。個別の関わりを大切にし、そこから集団で生活の中で孤立しないよう時には、職員が調整役となり支援している。		
32	関係を断ち切らない取り組み  サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居された後も何かとホームの事を気にかけて下さる方もおり、出会えた縁を大切にし、退居後も必要に応じて支援している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々の関わりの中で話しや表情、仕草からその人が何をしたいか、どのような希望があるのかを推測し、それを確認していく。又その内容を職員全員で把握していく。</p>	<p>入居者との日々の関わりの中で、発言や行動を観察し生活表に記録することでその方が何を思っているのか何をしたいのかを職員全体で把握し対応できるように努めている。</p>
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居時に今まで使用していた馴染みのある家具、その他愛用品を持ち込んで頂くようにしている。また、本人やご家族より生活歴などを尋ね、それらの情報によりフェイスシートを作成、アセスメントを行いその内容を記録して全職員が把握し、ケアに活かすようにしている。</p>	<p>本人のこだわり、これまでの馴染みの暮らしを大切に、生活を支援していきたい。</p>
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>生活のリズムに配慮しながら、本人のペースで行えるよう、起床や食事の時間についても柔軟に対応している。また、入居者が出来る事を介護計画を通し全職員で確認し、必要なケアを提供している。</p>	
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居者の意向に沿った目標を立て、ホームでよりよい生活が出来るように介護計画を作成している。また、家族の面会時に入居者の生活の様子や心身の状態を報告している。介護計画には、本人の意見を尊重し作成している。</p>	
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>設定した期間に見直しを行っているが、本人の状態に応じ随時見直しを行っている。また、変化が生じた場合には、本人や家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した計画を敏速に作成している。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の一日の生活の様子や表情、バイタル、排泄や入浴の状況、食事や水分の摂取量、面会者、受診の状況等を生活表に記録している。カンファレンスや申し送り時はもちろんであるが、日頃の業務の中でも職員同士の意見交換を行い考察している。その意見を取り入れながら介護計画を作成しており、介護計画に基づいたケアを提供している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)</b>				
39	事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)			
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	近くの別法人の施設や理容店、消防署、タクシー会社などへ理解を得られるように働きかけている。また、近所の方々へは積極的に挨拶をしている。		
41	他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在は無いが、入居者や家族の意向や必要に応じて他のサービスを利用を支援して行きたい。		
42	地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議の委員として地域包括支援センターの職員も出席している。グループホームでの暮らしぶりなど伝え、長期的なケアマネジメントについて連携を図っている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>協力病院には優先的に受診していただけるような連携をとっている。かかりつけ医に往診していただいている方もいる。また、薬の処方については、薬剤師が直接ホームに届けてくれ、薬の指導も受けるという体制をとっている。</p>		
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>協力医療機関の中に精神科があり、認知症に関する診断や治療、適切な指示や助言を受けている。</p>		
45				
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入院時には本人の支援方法、生活の様子等を医療機関に提供し、家族との情報交換をしながら、早期退院に努めている。</p>		
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>契約時に利用者や家族と定期受診や急変時の受診先を確認している。体調に変化があった際には、速やかに上司へ報告し体調管理に努めている。</p>		
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>入居者の急変時には、すぐに対応できる総合病院が協力病院としてあり連携を図っている。かかりつけ医と連携し可能な限りホームでの支援を行なうが、医療行為が出来ない為医療が必要な方を受け入れる協力病院が確保されており、入居者や家族に安心していただいている。</p>		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>新しい住まいでも環境の変化に戸惑うことが少ないように、これまでの生活の様子、支援内容、注意点等の情報を提供している。</p>		
<p><b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p> <p><b>1. その人らしい暮らしの支援</b></p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>				
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>入居者一人一人の人間としての尊厳、プライバシーに十分な配慮をすることは法人の基本方針に掲げられており、全職員がその方に合わせた言葉掛けや対応を行なっている。入居者が混乱、不穏な状態にいる場合でも本人の話を否定せず、落ち着いた態度で接している。</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>入居者と一緒に献立を立てたり、毎日着る衣類を選んだり、日常のご自身に選択をして頂いている。本人の思いを傾聴し、個人の状態に合わせた声掛けを行なっている。「自己決定の尊重」は法人の基本方針であり、職員や施設の都合で行なっていない。</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>入居者の意志を尊重し、個人の生活のリズムに配慮し、個人のペースで行える様起床時間や食事時間についても、柔軟に対応している。日中も個人の状態に合わせて過ごせる様、自分のペースが保てる時間をとっている。</p>		
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援(53は、認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)</p>				
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている(認知症対応型共同生活介護)</p>	<p>入居者一人ひとりが好みの服を選べるように支援している。化粧水や口紅等をつける方など個人の好むおしゃれや身だしなみに配慮している。理美容院は入居者の希望に合わせ、美容師さんにホームに来ていただいたり、家族が対応している場合もある。</p>		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>入居者と一緒に和やかで楽しい雰囲気ですぐに食事がとれるよう心がけている。畑で四季折々の野菜を作っており、食事に旬の野菜を取り入れている。対面式の台所で一緒に準備、盛り付けし、片付けも一緒に行っている。</p>		
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>個人の好きなものや嫌いな食べ物を把握しており、本人が希望する飲み物やおやつ等を家族や職員が用意し、希望時提供している。</p>		
56	<p>気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>個々の排泄パターンを把握し、個々の状態に応じた対応をしている。排便の状況も確認し、バランスを考えた食事等から自然排便に努めている。個々に処方された下剤についても服薬量や頻度の確認を行っている。</p>		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>バイタルチェックを行い、個々の希望する時間帯に個々のペースに合わせて入浴出来るよう配慮している。入居者一人ずつ入浴され、職員一名が見守り、必要に応じて介助を行っている。浴槽のお湯は一人毎に交換し、ほぼ全員が毎日入浴している。</p>		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>一人ひとりの睡眠パターンは申し送り(生活表を確認したり)等で把握している。眠れない方はテレビを見たり、ホールで職員と話をしたり、お茶を飲む等対応している。日中傾眠みられる方には日中に体操や掃除、散歩を取り入れゆっくと眠れるよう支援を行っている。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)</p>	<p>食事作り、居室の掃除等一人ひとりの力を発揮してもらえるような場面の提供を行っている。又、外出では、入居者が行きたい場所や食べたいもの等意見を取り入れ、相談しながら行っている。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している(認知症対応型共同生活介護)	日常の金銭管理の出来る方には小銭の管理をして頂き公衆電話などに利用している。その他の入居者には家族の同意を得て、防犯上の問題から通帳管理をしている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	入居者の希望に応じて、買い物や外出、散歩、ドライブなどを楽しめるようにしている。又、歩行が困難な方に対しては、車椅子で出掛けられるように支援している。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している(認知症対応型共同生活介護)	家族の協力を得ながら自宅や墓参り、温泉旅行等に出掛けられる入居者もいる。入居者の希望があった際には実現できるように支援している。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	玄関に公衆電話を設置しており、入居者が気兼ねなく、いつでも家族や友人と連絡がとれるようにしている。家族も直接公衆電話に掛けて来る事も出来る。本人の希望により、電話の介助や手紙の代読や代筆を行なっている。個人用のポストも玄関に設置してある。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している(認知症対応型共同生活介護)	家族や馴染みの方が訪問しやすいような雰囲気作りを心がけている。家族の希望があれば宿泊や、一緒にご飯を食べる等の配慮を行っている。他入居者に遠慮することなく過ごしていただけるように、スペース(談話室)を整え居心地のよい空間作りに努めている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内に各部署より「身体拘束廃止検討委員」が選任されており、グループホームからも委員が定期的に委員会に参加している。ミーティングや申し送りに全職員に伝達、報告し、身体拘束を行わないケアをしている。又、外部研修にも参加している。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関の施錠はしていない。ホール内に職員が常におり、安全面に配慮しながら見守り、対応している。夜間は職員の配置人数が少ない為、事故防止や防犯の為施錠している。その旨、家族に説明し、了承を得ている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中はホール内で見守り対応している。ホールから離れる際には職員同士が声かけし、ホール内の見守りができるようにしている。また、台所が対面式になっており、調理中も見守り対応している。夜間は巡視をし、状態観察するとともに、全体が見通せる位置で待機をしており、利用者の安全に配慮している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意が必要な包丁などの調理器具や薬品は引き出しの中や職員室で保管している。入居者が包丁や石鹸、洗剤、裁縫道具を使用する際は入居者の状態に合わせて職員が見守りを行っている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハットや事故報告書の提出すると共にし、内容や対策を全職員が把握し、共通認識を持ち事故防止に努めている。法人内に事故防止委員会を設置しており、定期的に委員会を開催し事故防止に取り組んでいる。入居者の状態から危険を予測し、ミーティングの中で対策を検討し、統一した対応をしている。		
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時マニュアルを作成し、全職員が内容を把握し、実施している。また、法人で行われたBLS講習に参加したり、ミーティングの際、法人の看護師から講義を受け、緊急時の対応ができるようにしている。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	自衛消防隊を結成し、マニュアルを作成している。年に2回(うち1回は夜間想定)消防署立会いのもと、避難訓練を行っている。その際、消火器の使い方の訓練も行っている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	<p>リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている</p>	<p>入居者のリスクと対応については面会時や電話などで家族へ報告を行い、状態を理解していただいている。又、対応策については職員間でミーティングやカンファレンスで話し合っている。</p>		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	<p>普段の状態を職員は把握しており、食欲や顔色、様子等の変化が見られた時は、バイタルチェックを行い、速やかに上司に報告すると共に、職員間で情報を共有し、記録している。必要に応じて医療機関の受診を行っている。</p>		
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>入居者の薬に関する情報を個別ファイルに保管し、その内容を把握している。服薬時は本人に手渡し、内服するまで確認している。薬の処方や用量が変更された時は職員間で情報を共有し、本人の状態変化が見られる時は上司に報告するとともに記録している。</p>		
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>	<p>繊維質の多い食材や乳製品を取り入れたり、食事の工夫をしている。トイレ介助の際、腹部マッサージなどを行い、自然排便できるように取り組んでいる。下剤の使用の際は、個人の状態に合わせた使用量、頻度に行っている。</p>		
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>	<p>職員は口腔ケアの大切さを充分理解しており、毎食後の歯磨きや外出後のうがいの声掛けを行い、個人に合わせた援助を行っている。</p>		
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>毎日の食事量や水分量は個別に生活表に記入し、周知している。硬いものが苦手な方には、刻み食にしたり麺類等を食べたくない時に白米で対応すること等個別に応じて支援を行っている。一人ひとりの嗜好を把握し、献立に取り入れながら、栄養のバランスにも配慮している。必要に応じて、個別に高カロリーの栄養剤による補給を行なっている。</p>		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	入居者や職員は外出後や食事前はうがい手洗いをしている。又、外からの感染を防ぐため入り口に張り紙をして、外来者や面会者に石鹸での手洗いの協力をお願いし実行している。ノロウイルス対策の為、使用時毎の便座の消毒、便や嘔吐物の後始末の処理を徹底している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎食後、食器類は熱湯消毒を行っている。まな板、布巾は次亜塩素酸ナトリウムで消毒除菌を行っている。台所はいつも清潔を保持するため次亜塩素酸の薄め液を用意し、消毒除菌を行っている。食材は賞味期限の確認を徹底している。又、野菜等は買った日付を記入し古いものから使っている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	ホーム周辺に植物を植えたり、玄関先には花を植えたプランターやベンチを置くなどしている。玄関には季節に合わせた飾りや置物で装飾したり、家庭的な雰囲気を心がけている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の生活空間には家庭用の冷蔵庫や食器棚、ソファを設置し、浴槽も家庭用浴槽を使っている。季節の花や観葉植物を飾ったり、落ち着ける空間を心がけている。居室の照明は明るさの調整が出来るものを使用しており、日差し対策としてのカーテンの使用と合わせてどちらもこまめに職員や入居者が調整している。職員は生活の場である事を常に意識し、テレビの音量や会話のトーン、足音にも配慮している。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはテーブルと椅子があり、テレビの近くにソファのコーナー、廊下側には畳ベンチのコーナーがあり、入居者はその時々に合わせて思い思いの場所で過ごせるスペースを作っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている		

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

項 目		取 り 組 み の 成 果 ( 該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こ と )
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほ <b>ぼ</b> 全 <b>て</b> の利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない その他( )
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎 <b>日</b> ある 数日に1回程度ある たまにある ほと <b>ん</b> どない その他( )
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほ <b>ぼ</b> 全 <b>て</b> の利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほと <b>ん</b> どいない その他( )
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほ <b>ぼ</b> 全 <b>て</b> の利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほと <b>ん</b> どいない その他( )
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほ <b>ぼ</b> 全 <b>て</b> の利用者が 利用者の2/3くらいが 利 <b>用</b> 者 <b>の</b> 1/3くらいが ほと <b>ん</b> どいない その他( )
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほ <b>ぼ</b> 全 <b>て</b> の利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほと <b>ん</b> どいない その他( )
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほ <b>ぼ</b> 全 <b>て</b> の利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほと <b>ん</b> どいない その他( )
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほ <b>ぼ</b> 全 <b>て</b> の家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほと <b>ん</b> どできていない その他( )
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほ <b>ぼ</b> 毎 <b>日</b> のように 数 <b>日</b> に1回程度 たまに ほと <b>ん</b> どない その他( )

項 目		取 り 組 み の 成 果 ( 該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こと )	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない	その他( )
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない	その他( )
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	その他( )
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない	その他( )

## 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・入居者の約3分の1が同じ安積町内の出身者である。
- ・献立作成の際は検食簿を活用し入居者の希望を取り入れたり、必要に応じて同法人特養の管理栄養士の助言をもらいながら栄養のバランスに留意し、四季折々の食材を十分に活かした食事を提供している。「手作り」にこだわり、おせち料理やおやつも手作りを心がけている。